

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 5 部門第 2 区分
【発行日】 令和 4 年 3 月 15 日(2022.3.15)

【公開番号】 特開 2019-211081(P2019-211081A)
【公開日】 令和 1 年 12 月 12 日(2019.12.12)
【年通号数】 公開・登録公報 2019-050
【出願番号】 特願 2019-101649(P2019-101649)
【国際特許分類】

F 1 6 K 7/04(2006.01)

F 1 6 K 7/06(2006.01)

F 1 6 K 41/04(2006.01)

F 1 6 J 15/18(2006.01)

F 1 6 J 15/10(2006.01)

【F I】

F 1 6 K 7/04 Z

F 1 6 K 7/06 F

F 1 6 K 41/04

F 1 6 J 15/18 B

F 1 6 J 15/10 C

【手続補正書】

【提出日】 令和 4 年 3 月 7 日(2022.3.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0030

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0030】

図 8 は、曲率 R と全閉押圧力 F との関係を示す図であり、図 9 は、曲率 R とひずみ E との関係を示す図である。「全閉押圧力」とは、駆動部 5 によって駆動された押圧部 4 によって管体 3 を変形させ、ピンチバルブ 1 を全閉状態にするのに必要な押圧力をいい、「ひずみ」とは全閉状態において、管体 3 の最も変形している部分、例えば、押圧部 4 の先端部が当接する管体 3 の部分におけるひずみをいう。ひずみ E は、変形前後の長さの変化分を、変形前の長さで割った値である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0043

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0043】

第 2 実施形態によるピンチバルブ 100 は、通常使用時に密閉性を確保するための 1 次シールに加え、管体 3 が破裂した場合に備えた 2 次シールであるシール部を有する。それによって、管体 3 が破裂したとしても、管体 3 の内部の流体がピンチバルブ 100 の外部へ流出することがない。具体的には、ピンチバルブ 100 は、シール部として、第 1 シール部材である環状突起 133 と、第 2 シール部材である O リング 25 と、第 4 シール部材である O リング 17 とを有し、これらは管体 3 の外面近傍の空間と、ピンチバルブ 100 の外部との流体連通をシールする。なお、上述したように、第 2 実施形態によるピンチバルブ 100 は、第 1 実施形態の第 3 シール部材である O リング 29 に相当する構成を有していない。環状突起 133 を O リングに代えてもよい。

